

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100011		
法人名	株式会社 マル若商店		
事業所名	グループホーム ホープ		
所在地	岐阜県多治見市希望ヶ丘2丁目1番2号		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&KijyosyoCd=2191100011-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入所してから年数が経つにつれて少しずつレベルが下がり、レクなど一緒に楽しめることが少なくなりがちです。月一度のボランティアによる「おやしバンド」や、季節に応じた外食による気分転換等、心掛けています。 また、ちらし寿司やおやつ等、手作りの日を設けるようにしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設11年の事業所は団地の一角にあり、一歩外に出れば、近隣の住民と気軽に挨拶が出来る関係が育っている。利用者は、散歩の際に、近隣住民と会話を交わしたり、地域の行事にも参加をしている。職員は、利用者が、健康体操やレクリエーションで適度に身体を動かし、人とのコミュニケーションを通じて、脳の活性化や生きがいに繋がられるよう、支援に取り組んでいる。また、手先や頭を使う絵手紙や習字、おやつ作り、調理の手伝いなど、利用者は、職員と共に楽しみながら、家庭的な雰囲気の中で、穏やかに暮らしている。職員もまた、利用者から学びながら、様々な支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームに入居しても、以前住んでいた馴染みの関係を断ち切らず、地域の一員として暮らして頂くように支援している。	地域住民と協力し、利用者が安らぎと生きがいを感じる事ができ、自分らしさが保てる支援を理念に掲げ、職員の目につきやすい場所に掲示している。職員会議で理念を振り返り、確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃や行事に参加し、地域の一員として交流している。	自治会に加入し、地域の行事に利用者が参加をしている。地域の清掃活動に参加したり、定期的にボランティアを受け入れるなどして、事業所の存在や役割の理解を得ている。また、災害時における福祉避難所として、市と協定を結んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか活かす機会が少ないが、町内清掃の折などに近隣の認知症の方々の情報を集めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	引き続き、参加者が少ないことが課題であるが、定期的に会議を開いていきたい。	区長、行政、民生委員、地域包括支援センターなどが参加し、運営推進会議を隔月に開催することを目標に取り組んでいる。地域との連携を深めるために、地域の福祉の日の取り組みについて、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの相談事や課題については、日常的に市へ相談・確認・指導を直接受けている。	ヒヤリハットや困難事例、介護保険法改正等で、日頃から相談し、指導や助言を受け、情報交換をしている。また、運営推進会議にも参加を得て、福祉の動向などを話し合い、行政主催の研修会に参加して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、スタッフ会議で議題として取り上げたりして学習している。今後も常に取り組んでいけるよう話し合っていく。	拘束の弊害を正しく学び、日々確認しながら、身体拘束をしないケアを実践している。利用者が不穏にならない環境づくりに努め、利用者の思いや行動を束縛せず、気持ちを受け止めながら、穏やかに安心して過ごすことのできる支援を基本にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については各職員の意識付けを行って防止に努めている。毎月の会議にて個々のケースを確認している。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、後見センターの主催する会に参加した。又利用者に活用できるように支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に当たって施設内を利用者・ご家族に見学して頂き契約書・重要事項・運営規定等詳しく内容を説明し、理解・納得を得たのち契約を行っている。又、不明な点は随時説明できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議にて利用者やご家族の意見を取り入れられるよう接客をしている。	「ホープ便り」を家族に送付し、要望を出し易い工夫をして、事業所と家族が連携できるよう努めている。家族の意見や要望は、訪問時や手紙、電話等で聴いている。オムツの取り扱いについて、具体的な質問があり、話し合いを行い対応している。	契約時以降の、キーパーソンとなる家族の高齢化や、遠方の家族との対応に支障が生ずる場面があり、現在、各利用者の家族等の実態を把握中である。実態に則した家族との連携に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度以上のスタッフ会議で、各利用者の状態やホームの運営に対して職員の意見を取り入れ全員で考えられるような場を設けている。	日常的に、管理者が職員の意見や要望を把握し、施設長と管理者が参加する毎月の職員会議の中で、それらの意見や要望について話し合い、検討し、対応を行っている。職員から、ケアサービスに関する学習会開催の希望があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給や労働時間等、常に職場環境の条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会や外部研修の機会を持つように努めて行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ経営のグループホーム間における問題点などを共有している。通信メールにより、適時必要な情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至った経いや、入居者の置かれた立場など、医療、社会面からよく理解した上で、声掛けや見守り、本人の立場に立って傾聴し、ご本人に安心していただける環境作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望をよくお聞きした上で、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のご希望を第一と考え、ご家族と相談した上で必要なサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する」という態度を慎み、「一緒に暮らす」という立場で、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆を大切にしながら、御家族との連絡を密にして、利用者様を支えていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽にご家族や知人の方々に訪問していただけるような雰囲気作りに努めています。	職員は、利用者の家族、知人、友人が気軽に訪問できるよう雰囲気づくりに努め、次回の訪問につなげている。定期的に、理・美容師の訪問もあり、馴染みとなっている。また、買い物で利用者の馴染みの場所に行ったり、家族の協力で一時帰宅や墓参り、親戚宅等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の席順など特に最初は気を付け、利用者が孤立や対立しないよう職員が関係作りに努めている。利用者一人ひとりの個性や性格を把握し利用者同士が自然に仲良く安心した生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ転居されたときなど、必要なときはご家族に了解していただき、施設内での情報を開示するなど、退居先でご家族や利用者が混乱しないよう努めている。入院中の病院へお見舞いに行くなど、ご家族との関係を大切にし、連携も断たないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思い、希望や意向の把握に努め、日々快適に暮らしていただけるよう努めている。	事前のアセスメントで本人の思いや意向を把握し、職員間で共有している。利用者との会話や個別ケアの際にも意向を把握するよう努め、記録したものを共有している。意思表示が困難な場合は、本人の表情や動作などから推し量ったり、家族からの情報で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など、詳しく聞き取り情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者ごとに一日の生活リズムを把握し、本人にあったリズムで対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者ごとに会議にて意見を出し、医師や担当看護師の意見を参考に、利用者・ご家族の希望を計画に反映し支援に努めています。	介護計画作成は、家族の訪問時や、事前に電話や手紙などで希望や意見を聴いて把握して、行っている。また、介護記録を基に、職員、医師、看護師などで話し合い、それぞれの意見を反映し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや各利用者の個別ノートと日勤記録を作成し、日々のケアや気づきの情報を共有している。全職員が読んで利用者の情報を把握し、利用者個々に対し統一したケアができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院介助や付き添いの支援を行っている。医療連携体制をとっており、看護師による健康のチェックや相談も行い、緊急には連絡し、かけつける体制もとっている。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアのおやじバンドを月一回、音楽療法コースやウクレレと歌の会のボランティアさんが来てくださる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第4の月曜、かかりつけ医の往診を受け、健康への管理体制をとっている。薬等の変更時には、本人・ご家族にも話をして了解が得られるよう努めている。	かかりつけ医についての事業所の方針を、本人・家族に説明し、理解を得ている。協力医は毎月定期的な往診があり、看護師でもある職員が医師と連携を行っている。ほぼ全員が協力医に変更をし、安心な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康相談や健康管理を実施している。各利用者に異常が発生したときは、看護師にすぐに連絡し必要な時は、かかりつけ医の受診や入院措置など迅速な対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族の同意を得て利用者が入院した際は、看護師が立会い、ご家族の良き相談者となっています。又病院関係者と相談し早期退院に向け支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合における医療体制指針を説明し、承諾を受けている。随時、主治医とご家族との今後の方向性を話し合い、グループホームでの生活を考えて頂く場を持っている。	重度化や終末期の対応について、契約時に利用者、家族に説明し了解を得ている。状態の変化時には早い段階で関係者が十分に話し合い、事業所でできることを説明し、利用者、家族が安心できるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を各階に貼り出し、迅速な対応ができるようにしている。又、消防署の協力を得て救急救命法やAEDの研修を実施し、緊急時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと緊急マニュアルを作成し、利用者も参加した消防訓練を計画しています。地域との協力体制については、運営推進会議にて災害時の協力をお願いしていきます。	年2回、夜間想定を含めた火災訓練を、利用者も参加して実施している。火災訓練は、事前に回覧で地域に発信し、運営推進会議でも協力を仰いでいる。また、地域の防災訓練にも参加し、災害時の協力体制を整えている。	現在、災害対策について、行政と連携し、マニュアルを作成中の段階である。運営推進会議の中でも話し合い、相互協力の下、災害対策に取り組まれる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには常に注意をして、利用者様の自尊心やプライバシーを損ねないように気を付けている。	日々の暮らしの中で、常に利用者の自尊心を損ねないような対応や言葉かけをしている。個々の生活習慣や性格にも配慮し、自己決定を重視している。部屋の入り口にはカーテンを掛け、声かけ、挨拶をしての入室が職員間で決められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望、自己決定ができるよう、声掛けや環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、常に利用者の立場に立って、個々に合わせた支援を心掛けている。自室に長時間いる利用者にはこまめに訪室し、声かけを中心とした支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の衣類選びにおいては、ご本人に選んで頂くように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気候のよい季節には、外食や外出行事を設けたりしている。 利用者様を交えた調理やおやつ作り、後片付けなども手伝っていただいている。	専門の調理担当者が、利用者の希望を取り入れながら作り、利用者は下準備など、できる人ができる範囲で食事作りに参加をしている。調理の匂いが漂い、食事時間には自然に利用者が集まり、準備をし、職員と一緒に同じテーブルで、楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の健康状態や歯の状態に合わせ食事形態を実施し、バランスの良い食事を摂る事を心がけている。毎日、10時と3時のおやつを実施し、水分を摂れるように対応をしている。食事量の記入や食事介助・見守りも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、清潔を保つようにしている。 また、夜間は義歯を預かり、毎日洗浄している。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した方も介助が必要な方も、排泄に関しては常に見守りと介助を行っている。排泄パターンを把握しパンツ・パッドの使用量軽減に努めている。	個々の排泄パターンを把握し、声かけと誘導により、利用者は、トイレでの排泄が、ほぼ習慣になっている。また、昼夜共、利用者の状態に合わせた排泄用品を使用し、家族の負担軽減につながるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて各利用者の排便を把握し、便秘が続く方に対しては看護師を通して医師と相談のうえで下剤を使用し、排便に心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番等は、できる限り本人の希望に沿う様にしている。又必要に応じ、入浴休みの日でも入浴して頂けるように努力している。	入浴は、週2回以上で支援し、利用者の希望を優先した柔軟な対応をしている。拒む利用者には、曜日の変更や、雰囲気を変えるなど工夫をしている。個浴でゆっくり入浴を楽しむ人や、介助を受けながら職員との会話を楽しみたい人などが、個々の希望に沿って、楽しい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の体調に合わせ、休息はとって頂くようにしている。日中と夜間のリズムをつけ安眠に繋げるよう心がけたり、話し相手になり安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は医療ファイルを確認し、全職員が把握できるように努めている。服薬時には、日付や氏名、時間や錠数、確実に口の中に入った事を確認しミスがないよう徹底している。又服薬済み空入れを使用し、再点検を引き継ぎ者がしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時々、食材のもやしやの芽取りなど全員でできるお手伝いをさせていただいている。お好み焼やホットケーキ作り等も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力で、外出、外食されたりする機会を設けている。散歩や自動車のドライブ等も行っている。	日常は、戸外に出て、ラジオ体操をしたり、利用者の状態に配慮しながら、近隣の散歩や外気浴などを行っている。喫茶店や買い物などには、職員と希望者で出かけている。年間行事では、花見、紅葉狩り、イベント等へ出かけ、利用者個別の希望外出は、家族の協力を得ている。	

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了承の上で、金銭管理は職員が行っている。外出の際、おこずかいの中から本人に支払をお願いしたり、おみやげを買っていただく時がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する場合は、電話をしています。手紙は毎月絵手紙をご家族に送るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファを置き、居室入り口には暖簾をかけ、利用者がゆったりとした気分で過ごせるようにしている。居間には、1階2階それぞれ壁に季節に合わせた貼り絵やレクリエーションでの個々の作品等を掲出し、居心地の良い空間作りに努めている。	共有の空間は広く、季節感を取り入れた作品、利用者の習字、絵手紙を掲示している。ゆったりとソファで寛ぎ、テレビ鑑賞、新聞を読むなど、思い思いの時間を過ごしている。感染症対策として、温湿度の管理を適切に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらも居間には、主に食事をするテーブル・椅子やリラックスして頂く為のソファ等も設置し、利用者同士が自由に過ぎて頂けるよう環境を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者にとってなじみの家具や物があれば居室に配置できるようにしている。又ご家族様の写真等置かれる方もあり、その人らしい「自分の家」になるような空間作りを支援している。	居室は、電動ベッド、エアコンを備え、清潔感がある。事業所が設置した太陽光発電で、部屋の照明は明るく、利用者の馴染みの家具や寝具を持ち込み、家族の写真、孫の作品などを飾り、自分らしく落ち着いて過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー構造で利用者の身体能力に合わせて自立して生活ができるよう配慮しています。本人の残存能力や生活の生きがいを保持して頂けるよう努めている。		